
北海道エアポート株式会社・小樽商科大学 「道北観光振興」の実現に向けた共同研究を開始 ～産学連携による新しい付加価値を創造～

北海道エアポート株式会社（本社：北海道千歳市、代表取締役社長：蒲生猛、以下：HAP）と国立大学法人小樽商科大学（所在：北海道小樽市、学長：穴沢眞）は、道北地域の観光客を増やし、観光産業を中心とした地域活性化に貢献するべく、稚内空港を中心とした道北地域の観光振興に向けた共同研究に着手します。

HAPが大学と連携して、産学連携で地域の観光振興を目指す初の事業です。北海道内7空港を運営するHAPと、地域の観光に精通する研究者を有する小樽商科大学は両方の強みを活かし、稚内空港を中心に道北地域の観光振興を通じ、地域経済の発展・活性化を支援してまいります。

2019年に設立されたHAPは、道内を巡るさまざまな国や地域の観光客が、道内7空港を使い分け、道内全域の多彩な観光資源をそれぞれの好みに合ったテーマで周遊し、北海道の魅力を存分に体感いただける「マルチ・ツーリズムゲートウェイ」の段階的な実現を目指しています。

小樽商科大学は、2022年度に帯広畜産大学、北見工業大学との経営統合を目指しております。統合の柱の一つが、北海道経済・産業発展のための「知の社会実装」推進であり、本件はその実現へ取り組むものです。

また、3大学は経営統合によって研究開発オープンイノベーションを推進すべく、今後は農・工・商の分野横断・融合型研究を観光の分野でも進めてまいります。

今回の共同研究では、道北観光の拠点となる稚内空港を中心とした地域において、HAPと小樽商科大学が調査・研究を実施し、北海道宗谷総合振興局、稚内信用金庫とも協力して、新たな観光需要創出、広域の観光流動の促進に取り組むとともに、稚内空港などへの新規路線誘致を目指します。